

気象庁ホームページ https://www.jma.go.jp/jma/index.html



雨量状況(リアルタイム)
リアルタイムレーダー【国土交通省】
降雨状況がリアルタイムで見られます。
https://www.jma.go.jp/bosai/realtimerad/index.html



https://www.river.go.jp/index

山形村LINE
https://page.line.me/258nawcf?openQrModal=true

二階建て住宅 約7.5m 人 約1.7m

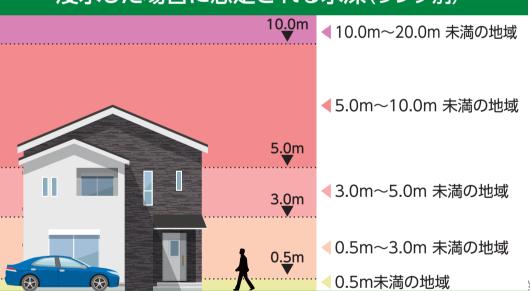
山形村防災メール https://www.vill.yamagata.nagano.jp/docs/2096.html





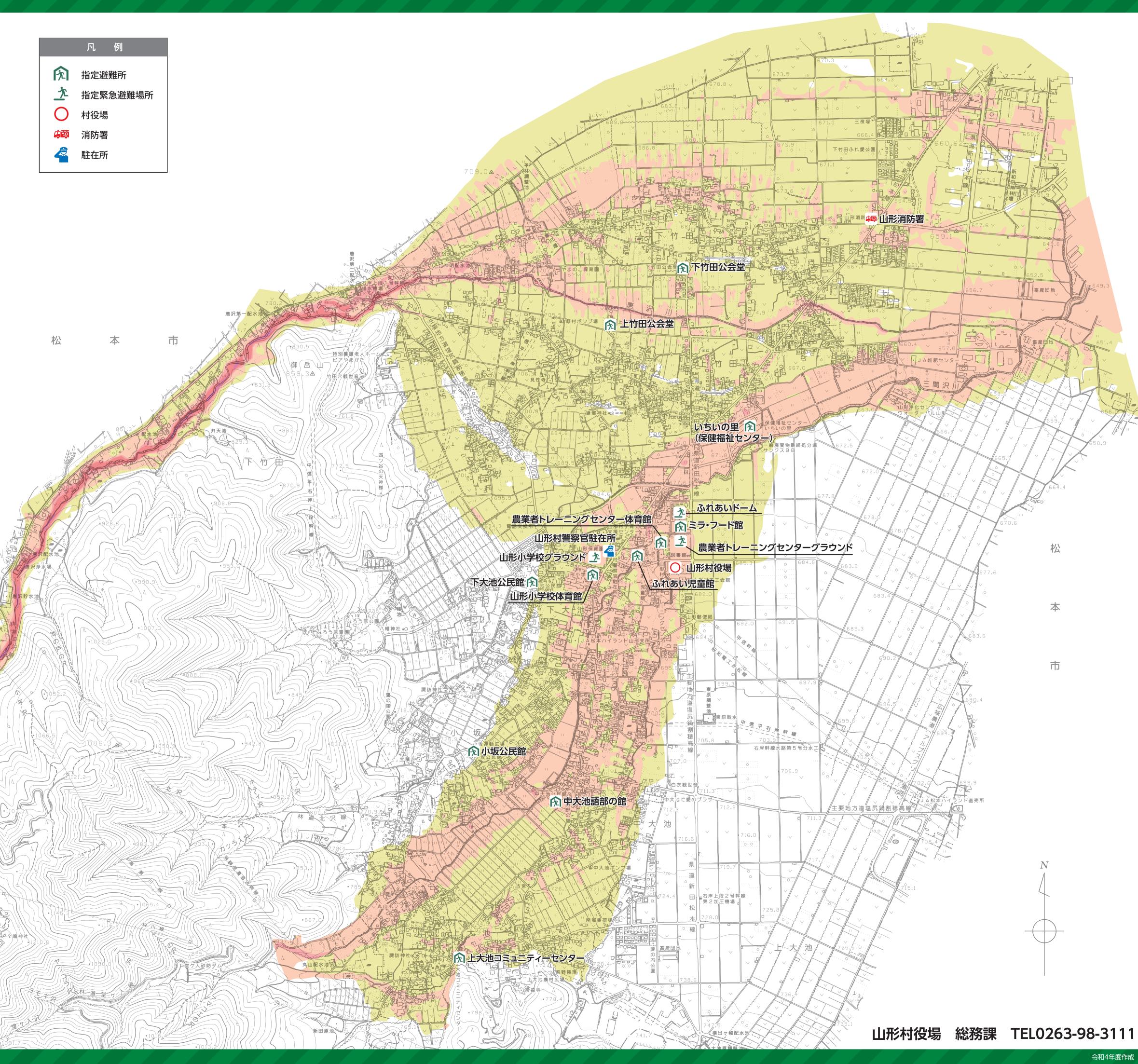
この浸水想定区域図は、長野県が令和4年4月に公表した唐沢川及 び三間沢川において、1000年に1度と言われる想定し得る最大規模の 降雨(流域全体813mm/24hの降雨)に伴う洪水により氾濫した場合 に想定される浸水の状況をシミュレーションにより予想したものです。

浸水した場合に想定される水深(ランク別)



所
住所
山形村2040-1
山形村3867
山形村935
山形村1321-6
山形村2756-3
山形村3792-1
山形村5333-3
山形村6948-1
山形村2061-1
山形村3940-1
山形村4520-1

指定緊急避難場	所
施設名	住所
農業者トレーニングセンターグラウンド	山形村2040-
 山形小学校グラウンド	山形村3867
ふれあいドーム	山形村2059-1



▶ 水害からあなたと大切な家族を守るために ◆

集中豪雨や台風などによる風水害は、毎年のように発生し、被害も甚大化しています。風水害はあ る程度は発生や経過が事前に予測しやすい災害です。大切な命を守るため防災気象情報などに注 意をして減災に努めましょう。

■集中豪雨

同じような場所で数時間にわたり集中的に強 く降る雨のことを集中豪雨といいます。気象庁で は雨量に応じて判断の目安となる情報を提供し 災害のおそれがあるときは注意報や警報などを 発表しています。





集中豪雨の危険を知っておきましょう

■短時間の大雨による水位の上昇

河川、渓流、下水管、用水路などは、激しい雨が降ることや、まわりから 雨が流れ込むことで、数分から数十分で危険な状態となります。

離れた場所の雨でも影響する

自分がいる場所で強い雨が降っていなくても、上流で降った雨が流れ てきて、下流の地域では危険な状態になる場合があります。

雨の強さと降り方の目安

	. — . — .					(資料:気象)
予報用語	1時間雨量 (mm)	人の受けるイメージ	人への影響	屋内 (木造住宅を想定)	屋外の様子	車に乗っていて
やや強い雨	10以上~ 20未満	ザーザーと降る	地面からの 跳ね返りで 足元がぬれる	雨の音で話し声が よく聞き取れない	地面一面に 水たまりが	
強い雨	20以上~ 30未満	どしゃ降り		寝ている人の ・ 半数ぐらいが 雨に気がつく	できる	ワイパーを速くしても 見づらい
激しい雨	30以上~ 50未満	バケツを ひっくり返した ように降る	傘をさして いてもぬれる		道路が 川のようになる	高速走行時、車輪と路面 の間に水膜が生じブレー キが効かなくなる(ハイド ロプレーニング現象)
非常に 激しい雨	50以上~ 80未満	滝のように降る (ゴーゴーと降り続く)	傘は全く役に		水しぶきで あたり一面が	まの 実 た は会 か
猛烈な雨	80以上~	息苦しくなりような 圧迫感がある。 恐怖を感ずる	立たなくなる		白っぽくなり、 視界が悪くなる	車の運転は危険
● 十市に トゥブ ((実がむてスセスれのちストキは「十市) 辛却」 () 「洪東() 辛却」 手上 た (((実がむてスセスれのちストキは「十市 (数却) か) 洪東 (数却						

●大雨によって災害が起こるおそれのあるときは「大雨注意報」や「洪水注意報」、重大な災害が起こるおそれのあるときは「大雨警報」や「洪水警報」、 さらに数十年に一度の重大な災害が起こるおそれが著しく大きいときは「大雨特別警報」が発表されます。 ▶数年に一度発生するような短時間の大雨を観測・解析したときには「記録的短時間大雨情報」が発表されます。この情報が発表されたときは、お住 まいの地域で土砂災害や浸水害、中小河川の洪水害の発生につながるような猛烈な雨が降っていることを意味しています。

▶ 避難情報を正しく理解しよう ◀

村や気象庁から発表される5段階の大雨警戒レベルと避難情報の意味を正しく理解して、身を守 るための安全な避難行動に生かしましょう。



避難情報等 警戒レベル相当情報 緊急安全確保(村が発令) 命の危険 直ちに安全確保! •大雨特別警報(浸水害) 災害が発生、またはまさに発生し ようとしている場合、高所への移 動、近くの堅固な建物への退避、屋 内の屋外に面する開口部から離れ た場所への待避など緊急に安全を 確保するようにします。

〈警戒レベル4までに必ず避難!〉



●今後気象状況悪化のおそれ

避難指示(村が発令) 危険な場所から全員避難 警戒レベル4避難指示で危険な 場所から全員避難しましょう。

高齢者等避難(村が発令) 危険な場所から高齢者等は避難 避難に時間のかかる高齢者や障 がいのある人とその支援者など ・洪水警報の危険度分布 は、警戒レベル3高齢者等避難で危 険な場所から避難しましょう。

大雨·洪水·

高潮注意報(気象庁が発表) •洪水警報の危険度分布 ハザードマップなどで自らの避 難行動を確認しておきましょう。

•氾濫危険情報

•土砂災害警戒情報

・洪水警報の危険度分布

早期注意情報(気象庁が発表) 最新の防災気象情報などに注意し

て、災害への心構えを高めましょう。

「警戒レベル相当情報とは」……警戒レベル相当情報は、国土交通省、気象庁、都道府県などが発表します。

警戒レベル

警戒レベル

急激に災害が切迫する等の理由で非難し遅れたため、災害が発生・切迫し、指定された 避難場所等への立ち退き避難を安全にできないおそれのある状況だと考えられる場合、 立ち退き避難から行動を変え、命の危険から身の安全を可能な限り確保するため、その 時点でいる場所よりも相対的に安全である場所へ直ちに移動等することです。ただし安 全を確保できるとは限らないため、警戒レベル4避難指示までに必ず避難しましょう。

■避難ってなにをすればいいの?

避難所に行くことだけが避難ではありません。避難とは「難」を「避」けることです。普段からハザー ドマップを利用して、自宅やその周辺の災害リスクを確認しておき、いざというときに、どこに・どの ように避難するのか相談しておきましょう。

MASK

Ź 指定された避難場所への立ち退き避難

小・中学校や公民館など、指定された避難場所に避難します。以下 のものは、自分たちで持参しましょう。

●マスク ●消毒液 ●体温計 ●スリッパ など

【 安全な親戚・知人宅への立ち退き避難

普段から親戚や知人と連絡を取り合い、災害時に避難することを相 談しておきましょう。

●ハザードマップで避難先が安全かどうかを確認しましょう。

【 安全なホテル・旅館への立ち退き避難

たとえ避難が目的でも、通常の宿泊料が必要になります。事前に予

約や確認をしましょう。 ●ハザードマップで避難先が安全かどうかを確認しましょう。

屋内安全確保

ハザードマップなどで以下2つの条件を調べて、自宅にいても大丈 夫かを確認しましょう。

- ●浸水深より居室が高い位置にある。
- ❷浸水しても電気やガス、水道、トイレなどが使え、飲料水や食料など の備えが十分にある。
- ●土砂災害の危険がある地域では「立ち退き避難」が原則です。

/! 防災・減災キーワード

避難するのは警戒レベル3それとも4?

警戒レベル3高齢者等避難の「等」には、高齢者のほか障がいのあ る人など避難に時間がかかり支援も必要な要介護者や、その支援者 などが含まれます。また、それ以外の人も状況に応じて避難準備や自 主避難をするタイミングです。一方、警戒レベル4避難指示が発令さ れたら、危険な場所にいるすべての人が避難することが必要です。家 族構成など行動をともにする人などに合わせてタイミングを見極め ましょう。



要配慮者を守るために

年齢や障がい、言葉の壁などによって、災害発生時の対応に何らかの手助けが必要な人を要配慮 者といいます。近年の災害では、特に高齢者の深刻な被害が多く、大きな社会問題となっています。 要配慮書を守るために、地域が一丸となって取り組んでいきましょう。

■ 要配慮者が安心して暮らせる環境づくり

要配慮者の立場をふまえた防災対策を

要配慮者の人たちに対して、情報伝達の際にはどうやったら情報が 正確に伝わるのか、避難誘導等を行う際にはどんな支障があるのか など、要配慮者の立場に立って考え、防災環境や防災体制を改善して

そのためには、要配慮者の方にも積極的に防災訓練に参加してい ただくことが大切です。

日頃から地域でのコミュニケーションを

日常の支援活動こそが、要配慮者への配慮につながる防災対策そ のものといっていいでしょう。日頃からコミュニケーションを図り、ブ ライバシーや個人情報に配慮しつつ、地域ぐるみでの支援活動を整

(家庭の中での習慣づけを

家庭内のちょっとしたことで、要配慮者に合わせた防災対策はでき るものです。また、隣近所の協力は不可欠ですから、普段の付き合い の中で相互理解を深めましょう。



すぐに避難・救 1階の玄関付近 に部屋を移す。



して出かけると きは、隣近所に



■ 要配慮者を避難誘導する際のポイント

災害発生という非常時には、身体・言語に不自由のある人ほど、状況の変化に対してより大きな不安 を抱くものです。そんなときこそ、思いやりの心で接し、その人の立場に立った支援を心がけましょう。



り、担架を使ったりす



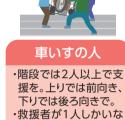
れ、ゆっくりと誘導。

・誘導先の障害物や道

路状況等を説明しなが







いときは、背負う。



電話番号

なるべくなくす。

▶ 防災について家族全員で話し合いましょう <</p>

防災対策の目的は、災害から家族の命と財産を守ることです。災害が実際に発生した場合を想定 して、家族全員で話し合いましょう。

自宅の災害危険度を確認しましょう

村では洪水のほか、地震や土砂災害等に関するハザ ード マップも公開しています。ご自宅やお住まいの地域 にどんな危険が想定されるのか、ハザードパップを活用 して 災害危険度を把握しましょう。

災害から命を守る!防災ハザードマップ

https://www.vill.yamagata.nagano.jp/docs/59821.html



※ハザードマップはあくまでも 特定の想定に基づく被害予想 です。そのため想定を上回る 被害になる可能性もありま

す。ハザードマップに頼り切ら ず、いざというときに自ら危険 性を判断できる能力を日頃か ら養いましょう。

わが家の危険個所を確認しましょう

家の内外の危険個所を点検しましょう。危ない箇所を 見つけたら、早めに修理や補強をして災害に強い家をつ くりましょう。

災害時の必需品を普段から準備しましょう

大規模な災害発生時はライフラインが止まってしまう 可能性があります。自分たちの家族構成などに応じて、 災害時に必要な食料や生活用品などを普段から備えて おきましょう(チェックリストを参照してください)。

災害時の家族の連絡方法を決めましょう

大規模な災害発生時、電話は非常につながりにくくな ります。家族がはなればなれでいるときに災害が発生し た場合に備えて、連絡方法をあらかじめきめておきまし

防災に関する情報に関心を持ちましょう

台風や大雨などの自然災害について、気象庁はさまざ まな情報を発表します。また災害の危険が迫って避難を する必要性が高まると、自治体は「高齢者等避難」「避難 指示」など非難に関する情報を発令します。普段から気 象情報などに関心をもつとともに、いざというときは逃 げ遅れるといったことがないように、避難に関する情報 の伝達方法を把握しておきましょう。



● 山形村防災メール https://www.vill.yamagata.nagano.jp/docs/2096.html



● 山形村LINE https://page.line.me/258nawcf?openQrModal=true



● 信州防災アプリ

https://www.pref.nagano.lg.jp/bosai/shinsyubosai.html



自宅周辺の避難場所を確認しましょう

災害の種類によって避難場所が異なる場合がありま す。災害別の自宅周辺の避難場所を確認しておきましょ う。また、さまざまな被害状況に対応できるように複数の 避難経路を想定しておくと安心です。

防災訓練に参加しましょう

地域で開かれる防災訓練には積極的に参加しましょ う。災害発生時の対応が具体的になってわが家の課題が 明らかになるほか、地域の防災力を認識することにもつ ながります。

家庭で備えよう! ▶もしものときの準備品チェック表◀

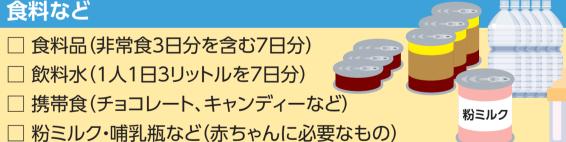


●必要なものの優先順位を決めて準備しましょう。 ●自身や家族の環境に合わせて準備しましょう。

●準備品は定期的にチェックしましょう。

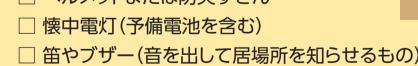
食料など

□ 食料品(非常食3日分を含む7日分) □ 飲料水(1人1日3リットルを7日分)



便利品など

□ 簡易トイレ □ ヘルメットまたは防災ずきん



□ スプーン、はし、カップ □ ラップ類

□ 万能ナイフ

□マスク

□ スリッパ

□ 給水袋

□ 救急セット

□ タオル

□常備薬、持病薬

□ビニール袋

□ 軍手または皮手袋

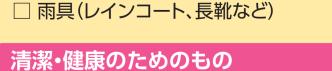
□マッチ、ライター













□ トイレットペーパー、ティッシュペーパー □ 着替え(下着を含む)

- □ ウェットティッシュ、汗取りシート
- □ 予備の入れ歯、補聴器 □ 歯磨きセット
- □ ポリ袋、ビニール袋
- □ 紙おむつ(幼児用・高齢者用)
- □ 生理用品

- □ 携帯電話(充電器を含む)
- □ 緊急時の家族、親戚、知人の連絡先
- □ 広域避難地図(ポケット地図でも可) □ 筆記用具、ノート

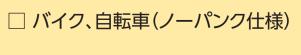
貴重品

□お薬手帳

- □ 現金(小銭を含む)
- □ 車や家の予備鍵 □ 予備の眼鏡、コンタクトレンズなど
- □ 通帳、保険証、免許証、マイナンバーカードのコピー □母子健康手帳

その他

- □ ペットフード
- □ レジャーシート □ テント
- □バール、ジャッキ





情報収集用品

- □ 携帯ラジオ(予備電池を含む)
- □ 家族の写真(はぐれた時の確認用)







わが家の防災メモ

住 所

●わが家の避難先 避難所名

●家族、親戚、知人の連絡先		
名 前	連絡先	電話番号

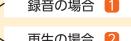
火災・救急・救助は 1 1 9 事件・事故は 1 1 0 災害用伝言ダイヤル 1 7 1

NTTでは、震度6弱以上の地震発生時など、被災地への安否確認電話が集中する場合に「災害用伝言ダイヤ ル」サービスを開始します。

災害用伝言ダイヤルの開設、登録できる電話番号等運用条件などは、災害後NTTが決定しテレビやラジオ放

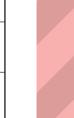
送でお知らせしますので、「171」をダイヤルし、利用ガイダンスに従って伝言の録音・再生を行ってください。





再生の場合 2 ガイダンスが流れます ▶ (XXXX) XX - XXXX





ーメモ





